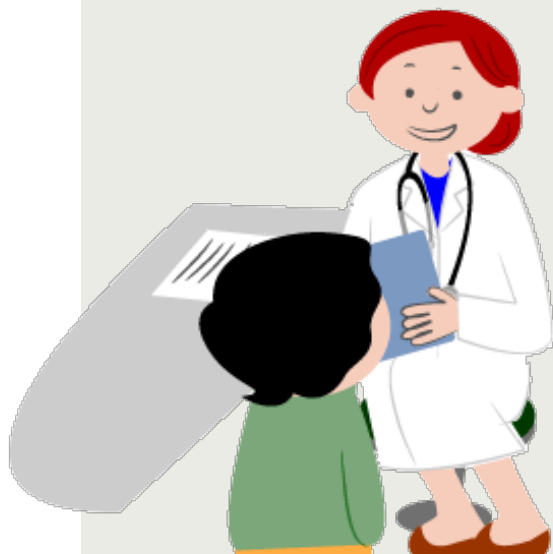


乳がん検診に関する
みなさんからよく聞かれる質問

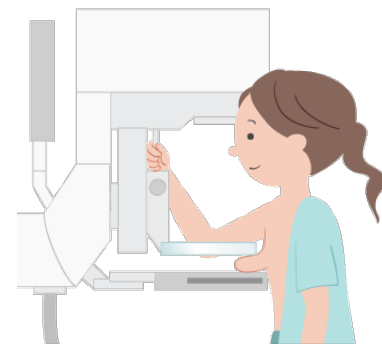
女性クリニックWe富山

ブレストケア

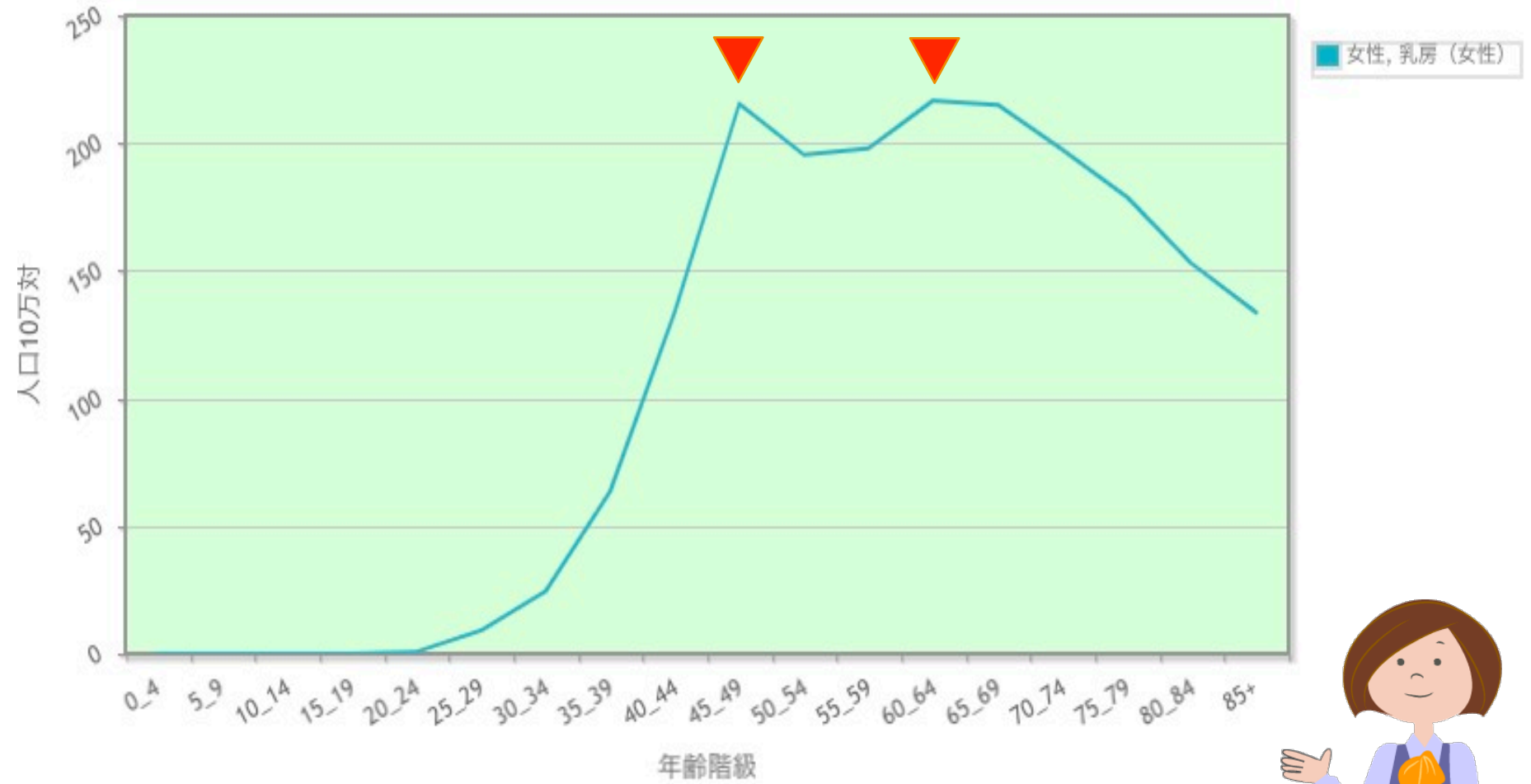


乳がん検診は 何歳頃から受けるといいですか？

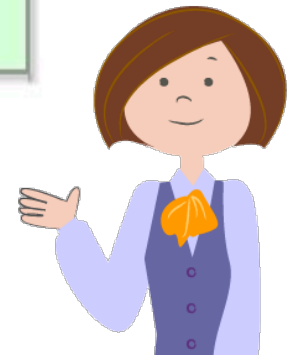
- 基本は「30代後半～」をおすすめします。
- 年齢別乳がん罹患数が30代後半から増え始めます。
- 40代後半と60代前半にピークがあります。（2014 全国罹患率統計）
- 若くして乳がんにかかった血縁者の方がいらっしゃる場合は
早めに検診を受けはじめましょう。



年齢階級別罹患率(全国推計値)
2014年

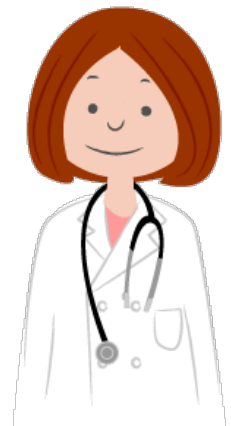


資料:国立がん研究センターがん対策情報センター
Source: Center for Cancer Control and Information Services,
National Cancer Center, Japan



定期的に検診を！というけれど、 どれくらいの間隔で受けたらいいですか？

- 「できれば毎年」「最低でも2年に1回」の検診をお勧めします
- 「前回と比較して変化がないか」「新しく何かできていないか」を、マンモグラフィや超音波検査の画像を確認しています。できれば、同じ検診施設で経過を追って検査を受けられることをお勧めします。
- マンモグラフィで痛みを感じられることが不安な方は、月経が始まってから5日目くらいから次の月経が始まる1週間前までに検査を受けられることをお勧めします。



「要精密検査」になりました・・・ これって乳がんってこと？

- 検診で「要精密検査」となられた方は、再度マンモグラフィと超音波検査と視触診で本当に疑わしいのかどうか確認します。必要に応じて乳房に針を刺して組織を採取する「生検」を行うことがあります。
- 「生検」を行った場合、その95%近くは乳がんではありません。「要精密検査」になったからといって不安にならずに、しっかりと再検査を受けましょう。



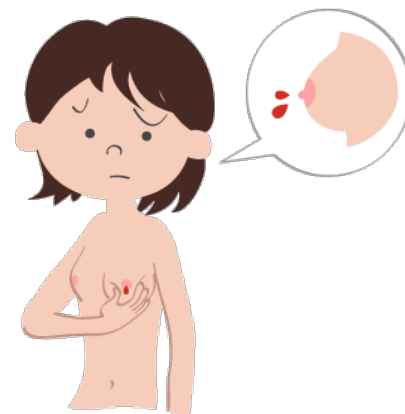
マンモグラフィ検査と超音波検査、 両方受けないとダメですか？

- 「マンモグラフィ単独」の検診より「マンモグラフィ+超音波を併用した検診」の方が乳がん発見数が有意な差を持って多いということが、40歳代の日本人女性を対象にした研究で報告されています。
- 「マンモグラフィ+超音波を併用した検診」では、早い段階（stage）で乳がんを見つけることができます。早くに発見された乳がんは完治することが可能であることも多く、そのためにも精度の高い「マンモグラフィ+超音波を併用した検診」を受けられることをお勧めします。



胸が痛いのは乳がんと関係ありますか？

- ❑ 胸の痛みと乳がんは「関連がないことが多い」と言われています。
- ❑ 乳がんは乳腺組織にできる悪性の腫瘍をいいます。乳腺組織は女性ホルモンなどの影響を受けやすく、月経周期によって痛みや張りなどを感じるのが通常ですので、痛みがあるからといって乳がんを疑うことはまずありません。
- ❑ 乳がんは「乳房の硬いしこり」と乳頭からの「血性乳汁分泌」が主な症状です。



妊娠中や授乳中に 検査は受けることができますか？

- マンモグラフィはX線を使用した検査ですので、胎児への影響も考慮して妊娠中は受けないのが普通です。
超音波検査や視触診は可能です。
- 授乳中は通常通りの検査は受けることができます。
ただし、授乳中は乳腺組織が発達している状態ですので、マンモグラフィや超音波検査でも異常か異常でないかを見分けるのが難しく、検診の精度は劣ります。
できるなら卒乳または断乳後1～2ヶ月経った頃に検査を受けられることをお勧めします。
- 授乳中のしこりは、乳瘤のことが多く、
まず助産院に相談されることをお勧めします。

